

「こむぎっち号」の実証運行から本格運行への移行について（案）

実証期間中の運行に対する検証

検証 1. 安全な運行・安定した運行ができたか

検証による結果：安全な運行・安定した運行を行うことができている

- ・実証期間中に2件の交通事故が発生したものの、いずれも相手方の過失であり事業者
に過失のある事故は発生しなかった
- ・事故発生の際も、運休とはせず、代替車両による運行が実施できた
- ・交通渋滞や時刻表の編成が原因となるような遅延は発生しなかった

※検証材料 運行実績（運行事業者の業務報告書）

検証 2. 利用者の満足は得られているか

検証による結果：利用者の満足は得られている

- ・利用者アンケートの満足度を計る項目すべてにおいて、満足度は高い

課題：利用者アンケートにより、駅からのバス利用者が多く、スムーズな乗り継ぎについての要望がある。

→→（改善案）**毎年の電車のダイヤ改正に合わせた中央ルートの時刻表見直しを検討**

課題：満足度が最も低かった「運行時間」については、南部ルート唯一の商業施設であるウニクスでの滞在時間の延長を希望する意見があった。

→→（改善案）**南部ルートのウニクスでの滞在時間が長くなるよう、調整が可能な範囲で時刻表の見直しを検討する。**

課題：「運行日」の『不満』の理由が日曜日も運行してほしい（100%）であった。

→→（改善案）**利用者数が大幅に伸びない限り日曜日の運行は難しいため、今後の利用実績により運行する曜日の検討を行う。**なお、現時点では曜日による利用者数の差は大きくない。

検証3. 着実な利用者増加となっているか

検証による結果：着実な利用者増加となっている

・運行当初から利用者数は1.37倍となり毎月着実に増加している。

課題：北部ルートの利用者が少ない（特に4便、5便）

→→（改善案）OD調査や今後実施予定のバス停利用者数（※）の結果をみて、
原因を明らかにし、ルート見直しの際は考慮する必要がある。

※検証材料 利用実績、利用者アンケート

本格運行への移行について（案）

実証期間中の利用者アンケートにより、運行日、運行時間、停留所、運賃についての満足度を計る項目は、いずれも高い結果となっている。

また、安全な運行・安定した運行ができており、利用者数については増加傾向にある。

以上のことから、実証運行に引き続き、平成28年10月1日より上里町コミュニティバス「こむぎっち号」は本格運行に移行する。

なお、早急な対応は要しないものの、各検証について出た課題については、改善案等により今後検討する。

（※）バス停利用者数・・・

町の依頼により平成28年10月1日から運行事業者が、試験的にバス停の利用状況（乗降者数）をカウントし毎月町へ報告するもの。

目的はバス停の利用頻度を把握し、より利便性の高い位置へのバス停設置を目指すため。なお、運転業務に配慮し、カウントは南部及び北部ルートのみとする。試験的に今年度中は行い、来年度以降の調査については、協定書締結の際に毎年町と運行事業者で協議して決める。